

タイトル：2024年教育セミナー（第20回）

日時：2024年9月19日（木）～22日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階大会議室（303）

「現代アレヴィーの集合的記憶とアイデンティティ」

谷山瑠（上智大学大学院）

まずは、本セミナーを企画・運営して下さったAA研の皆様、そして交流を通して様々な知見や情報を共有して下さった受講生の皆様へ心から感謝申し上げます。

この研究セミナーは自分の指導教員であり上智大学教員である澤江史子先生に「谷山さんがよくおっしゃる『歴史学』とはどのようなものなのかこの目で確かめてきなさい。」とのご助言をいただき参加させていただきました。歴史学のディシプリンや文書研究を行う高松先生や他の受講生の講義や発表を拝聴し、そうした研究の凄みを実感しました。

学外での発表は初めてで、受講生のラストバッターでもあったこともあり4日間緊張しつづけて、発表時もうまく話せませんでした。発表後の質疑応答でも「わかりません」や「勉強不足です」を連呼してしまい、発表の仕方なりその準備なり、自分の知識に関しても不足を感じたセミナーでした。しかし、貴重な意見をいただいたり、様々な観点から指摘をくださり非常に良い経験となりました。

トルコの宗教マイノリティであるアレヴィーの研究を学部生から行ってきましたが、今回は「記憶」の観点から現代のアレヴィーのアイデンティティ運動を分析しました。社会学の分野である「記憶」に関する知見が少なすぎるのと、全体的な枠組みを形作る「集合的記憶」を論ずる社会と局所に絞った調査を行う人類学というディシプリン設定等多くの問題を抱えていましたが、本発表で更なる問題点も見つかりました。発表後にも、今後の研究について新しい視座をアレヴィー研究の先輩である今城尚彦さんやトルコに関する多くの知見を持つ高松先生にいただきました。

情報交換会でも先生方にご意見や知識をいただき、研究に関する相談をもさせていただき、他大学の修士生たちと交流し仲良くしてもらい非常に充実した4日間でした。

最後に、博士論文執筆途中でお忙しい中足をお運びいただき多くの貴重なご意見をくださった東京外大博士課程の今城尚彦さん、そして再度今回のセミナーに関わった皆様に感謝を申し上げます。